

晴れやかに 設立30周年記念式典を挙行

当センター設立30周年記念行事の最大イベント「記念式典」が11月22日（土）、日野市民会館大ホールで晴れやかに挙行されました。

午前10時ちようど、北村議司副会長が開式を宣言すると、井口義雄会長が式辞をのべました。

会長式辞は、来し方30年を振り返り、発足初年度（昭和54年）の会員数507名が現在は1600名を超え、契約高は当初の8200万円が昨年度実績で5億9100万円と、会員数で3倍以上、契約高で7倍以上に発展したと紹介し、日野市をはじめ国・東京都等、諸

会長式辞、市長ら来賓祝辞 発注者に感謝状、役員・班長ら表彰

機関の支援、地域企業、地域社会の協力に感謝を表明しました。続いて、感謝状並びに表彰状贈呈に移り、発注者の民間企業20社を代表して、日野市企業公



月刊

さわやか

第20号
平成20年12月15日

《発行》
（社）日野市シルバー
人材センター
日野市日野本町2-4-7
0421581-8171

会員数

平成20年10月31日

1,638名

男性 1,252名
女性 386名

入会者数
10月 9名
(男6名、女3名)
但し、退会者 6名

三歳万歳

式典はこの後、馬場弘融日野市長らご来賓の8名から祝辞をいただき、ご招待者5名の紹介を受けました。最後に安藤義男理事の音頭で参加者一同が万歳を三唱、高木計宏理事が開式をのべ式典は午前11時前、滞りなく終了しました。

記念式典の参加者は第2部も含め660名でした。（記念式典の詳細は『シルバー』の『新年特集号』に掲載します。）

社への堀之内和信社長に井口会長から感謝状が手渡されました。

さらに、理事・監事を2期4年以上務められた13名を代表して中村敬元会長が、また2期4年以上務められた元地域班長、3期6年以上の現役班長の計24名を代表し柳田京次班長が、井口会長から賞状を受領。永年会員（在籍10年以上）144名を代表し足立孝也氏が賞品を受け取りました。

村上敏明ファミリー・コンサート

第2部アトラクションは、村上敏明ファミリー・コンサート。日野市が誇る国際的テノール歌手、村上敏明氏を中心に、父・敏雄氏、母・悦子氏、兄・宣也氏の総出演で、アンコールも含め計15曲を歌い、会場を魅了しました。終了は12時20分。



村上敏明氏

12月の就業報告書は

1月5日までに

12月の就業報告書は遅くとも年明け5日までに、事務局に届けてください。なお、12月27日（1月4日は事務局が休みです）ので、この間は駐車場入口の赤いポストに投函してください。

秋の地域班一斉清掃

雨天でも約半数が実施

今春、全33地域班のボランティア活動として取り組まれた街路・公園等の一斉清掃(5月18日)の第2弾、「秋の地域班一斉清掃」が11月16日(日)実施されました。30周年記念の一環。残念ながら今回は早朝から雨模様。時刻によつて降つたりやんだり、各班の行動開始時刻も7時45分から10時の間でまちまち。決行するかどうかは班長判断に委ねられました。

「濡れて風邪を引いてはいけ



大木島自然公園に集結した万願寺2班

ない」と、かなりの班が中止した中で、実施に踏み切った班が約半数の14班にのぼり、事務局から池田局長、半田局長代理が激励に回りました。

日野本町班では7時半ごろから金田班長を中心に集まり、程久保班でも8時前から野上班長をはじめ十数名が動物公園通りを清掃。金子班長の多摩平3班では、傘を差しながら歩道を清掃する班員もいました。

一斉清掃の参加者は前回414名、今回209名でした。

産業まつりに出店

手芸班、山野草・紙すきグループ

恒例の日野市産業まつりが11月8、9両日、日野中央公園などで開催され、シルバー人材センターから手芸班、山野草グループ、紙すきグループがセンター自前のテントで出店しました。

各テントでは会員募集のチラシをお客様に手渡すとともに、広報部会員が通行者に同チラシを配布しました。

また、紙すきグループは10月26日の「健康フェア&くらしのフェスタ」にも出店しました。



産業まつりでの山野草のテント

就業規約を一部改正

当センターの就業規約が10月31日の第8回理事会で一部改正されました。改正点は第6条3項の「守秘義務」を第7条に格上げし、内容の充実を図つたもの。新条項は次のとおり。

第7条 会員は、就業上知り得た業務上の機密事項を第三者に漏らしてはならず、また退会後も同様の義務を負つ。なお、「機密事項」とは、発注者、就業先、他の就業会員等の個人情報その他、就業先の社内情報、センターとの契約内容等をいう。

理事会二ニュース

- ・第9回理事会 11月30日
- ・審議事項 正会員の入会、地域班会議実施要領の一部改正、地域班長連絡会運営要領の一部改正、理事・監事選考委員の補充
- ・報告事項 平成20年度日野市行政評価について、公共施設巡回視察について、10月事業実績、各専門部会・安全管理委員会の活動報告

「センター」行事日程

- 12月15日(月)地区リーダー会議 〓センター会議室
- 12月16日(火)役員・地域班長合同研修 〓都浅川水再生センター
- 1月15日(木)地域班長会議 〓生活・保健センター
- 秋の会員研修旅行 〓沼津への旅、秩父宮記念公園見学(12月2日)

配分金の支払日

- 12月19日(金)
- 1月20日(火)
- 2月20日(金)
- 3月19日(木)
- 4月20日(月)
- 5月20日(金)
- 6月19日(金)



3階展示場で書を見入る来場者

設立30周年記念 会員作品 発表会

来客倍増で大成功

出展作品数も9割増
3階で抹茶サービス

当センター設立30周年記念の一環として「会員作品発表会」が11月20～23日、日野市民会館2・3階展示場で開かれました。従来の会員作品展を改名したもので、今回は通算12回目。

「30周年記念にふさわしく広範な会員が参加する作品発表会に」(実行委員会) をスロ

ガンに準備がすすめられてきただけに、例年になく盛り上がりとなりました。

参加形式も「サークル中心」から自由な個人参加となり、出展者は前回より3割増の61名、作品数は9割増の170点に。さらに来場者数は、前回490名の倍近い930名に上りました。とくに記念式典当日は、司会者の呼びかけもあって、1日だけで560名を超えました。

2階展示場では定番の写真、油彩・水彩・手工芸等に加え、初めて華麗な紙粘土細工や彫刻等が登場。3階では書や水墨、飾り炭等のほか、これも初めて豪華・長大模型「戦艦大和」がお目見え。さらに、3階和室での抹茶サービスもおこなわれました。(『シルバーひの』新年特集号で主要な作品を紹介。)

「秋の地域班会議」開催中

恒例の「秋の地域班会議」は11～12月、順次開催中です。昨年「秋」の出席率は42・5%でした。なお、来年度からは会議の名称が「春、秋」から「前期後期」に変更となります。

公共施設職場リーダー会議開く

市庁舎、生活・保健センター、各交流センターなど公共施設で就業する職場リーダーの会議が11月4日、当センター会議室で開催されました。この会議は池田常務理事の招集によるもので、井口会長が挨拶。職場リーダー29名が参加したほか、担当統括リーダーの伊藤義視、賀来英紀、山本寛3氏も出席しました。

就業期限確認書を交付

公共部門15カ所19名に

来年1月5日から就業を開始する公共部門15カ所19名に対し12月5日、就業期限確認書が当センターで交付されました。

橋本理事の司会のもと、井口会長が「ごく一部だが接遇での市民の苦情が絶えない。苦情ゼロにしなければならぬ」と挨拶。菅原理事が組織活動について、紺谷接遇専門委員が接遇についてお話ししました。公共の職場では今、就業会員は名札を付けることが励行されています。

安全表彰副賞に体脂肪測定器「カラダスキャンHBF 701」

前々号で報じたように、当センターは東京都シルバー人材センター連合の「実践フォーラム」で安全就業優良SCの表彰を受けました。その際、副賞として体脂肪測定器「カラダスキャンHBF 701」を頂きました。普通の体重計のようですが、データを入力すると、内臓脂肪や筋力を測定することができます。

それってなに？

ボランティア

もともとは英語で「志望者、有志」の意。転じて「自発的に無報酬で奉仕活動をする人」。この奉仕活動をボランティア活動といいます。その参加形態は多様で、「自発的に」を「自由参加」と受け取る解釈もあります。しかし、シルバー人材センターは「地域社会への貢献」を目的の一つ(定款)としており、ボランティア活動についても、「自由参加」でなく、会員の自発性を高めることを条件に活動参加をかなり義務的な「会員の心得」と位置づけています。

当センターが安全就業の事例発表

全シ協の安全・適性就業指導員研修でも

全シ協「全国シルバー人材センター（SC）事業協会の主催による安全・適性就業パトロール指導員研修が11月13、14両日、東京・港区芝5丁目の産業安全会館でおこなわれました。研修の対象者は全国都道府県SC連会の当該指導員ですが、日野市SCも安全就業の事例発表（13日実施）のため招かれました。当センターの事例発表は、これに先立つ都SC連合「実践フォーラム」（10月3日）の席上、出席して



プロジェクターを使って発表する伊藤氏

席していた全シ協代表によって要請されたもの。この「実践フォーラム」で当センターは安全就業の表彰を受け、「チャレンジ目標を定め事故『ゼロ』をめざす」と題する発表を行いました。

今回の研修でも安全管理委員会の伊藤委員長が同じ発表をし、飯森副委員長がプロジェクトを担当しました。さらに、当センターから井口会長、北村副会長、池田常務理事、橋本理事が事例発表に参加しました。

司会者から「日野市SCでは昨年来、事故件数が一ケタとなった。他方、重篤事故（死亡と入

院半年以上）は全国のシルバー人材センターで年40件も起きているが、日野市SCではこれまで1件も起きていない。だから発表を要請した」と紹介がありました。

重大！今年度事故件数が6件に

前年度を上回る

当センターの安全就業表彰とは裏腹に、今年8月以降相次いで事故が発生。新たに11月6日、市内駐輪場で就業中の会員（74）がバイクを整理しようとして後部フエンダーを破損する損害賠償事故を起こしました。この結果、今年度の事故件数は傷害、賠償各3件の計6件に達し、昨年度の計5件を上回りました。

「就業の安全」から「地域の安全」へ
ボランティア活動の役割高まる
全シ協研修から

これまで、就業会員達の就業安全の面を中心に対策をはかってきた。しかし今後は、それだけでは不十分になってくる。来年度からは、地

11月13日におこなわれた全シ協の研修で、開会挨拶に立った大山宏事業部長は「来年度は地域社会でのボランティア活動をもっと大規模にしていく」との方針を、要旨次のように語りました。
シルバー人材センターはこ

域社会への貢献の延長として、「市民を巻き込んだ安全のためのボランティア活動」をもっと大規模に展開していく。たとえば、学童の通学路パトロールなど。「会員の安全対策」から「地域ぐるみの安全対策」への発展だ。

お元気ですか

「風が吹けば桶屋が儲かる」と言う諺があるが、今全く逆の現象のさなかにあり、サブプライム問題でアメリカが風邪をひいたら世界中が風邪をひいてしまい、震撼の坩堝（るつぼ）にあると言っている。

まさに金融危機の到来で対岸の火事と安堵してられない世界に入ってしまった。

シルバーの仲間たちからすれば、皆三十数年間一生懸命会社勤めをして、少なからず蓄えもでき「さあこれから目減りをさせない為にはどうしようか」と、生命保険にも有利性を求め、あるいは投資信託性の金融商品に期待感を抱く、株式の売買など、それ相応の勉強をされていると思うが、今からでもしっかりと用心されてことに当たることが必須ではないかと思う。

結局、今お金に対する一番の安全は、金利がいくら安かろうが銀行、郵便局に預けることが安心と思う心境は私だけではない。この先オアシシには十分な用心を！
（飯森佳明）